

「レアアース、レアメタル」

ますます混迷度を深める米中貿易摩擦ですが、中国政府はレアアースの対米禁輸をちらつかせ、揺さぶりをかけています。ところで、「レアアース」とともに「レアメタル」という言葉もよく聞きますが、このふたつの違いをご存知ですか？

1. 「レアアース」とは？

レアアースの「レア」は「rare」で「希少な」を、「アース」は「earth」でこの場合「地球」ではなく「土」を意味します。その名のとおり地球上にわずかしこ存在せず、「希土類」と訳される科学用語で万国共通のことばです。受験生時代に「水兵リーベ僕の船…」と必死に覚えた元素周期表の左から3列目のスカンジウム（原子番号21）、イットリウム（同39）に「ランタノイド」と呼ばれるランタン（同57）からルテチウム（同71）までの15元素をあわせた17元素のことを指し、永久磁石や発光材料などの製造に欠かせない材料となります。かつて「キドカラー」という名前のカラーテレビがありました。これは「希土類」を使用して「輝度」を高めるということ由来していたそうです。

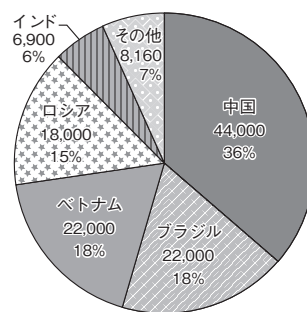
2. 「レアメタル」とは？

実はこのことばには国際的に明確な定義がありません。国内では一般的に経済産業省が定義した「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出が困難な鉱種のうち、現に工業需要が存在する（また今後見込まれる）ため、安定供給の確保が政策的に重要なタングステン、コバルト等の31鉱種」をレアメタル（希少な金属）と呼びます。これには上記のレアアース17元素すべてが含まれています。つまり「レアアース<レアメタル」ということになります。鉄や銅などのように、生産量が多く大量に使用される「ベースメタル」、金や銀、プラチナのようにそれ自体が希少で高価な「貴金属（precious metal）」に対し、存在量が希少または存在量はあるものの採掘・抽出がむずかしく、産業用として使用されるものを指します。なお、「レアメタル」は日本独自の表現で、海外では「minor metal（マイナーメタル）」と呼ばれることが多いようです。

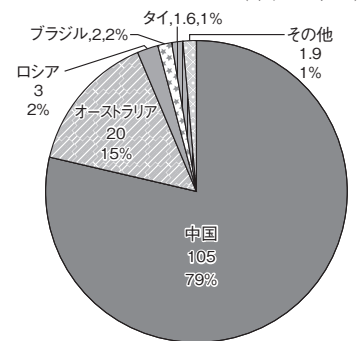
3. 米中貿易摩擦は世界経済にも深刻な打撃

図表1、2は、2017年におけるレアアースの国別埋蔵量と国別鉱石生産量を示したものです。いずれも中国がトップで、特に鉱石生産量は79%を占めています。中国のレアアース輸出制限は世界の需給バランスに影響がありそうです。また、中国の対米レアアース輸出制限が実行された場合、中国にも副作用を伴うとの指摘もあります。米中の貿易摩擦はこの問題も含め、両国間にとどまらず世界経済に深刻な打撃を与える恐れがあり、今後も推移を注視していく必要があります。

図表1 レアアース国別埋蔵量
(単位：千t)



図表2 レアアース国別鉱石生産量
(単位：千t)



独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構「鉱物資源マテリアルフロー2018」より

閑話ひとつ

- ▶ 東北版のテレビニュースを見ていると、画面に映る今どきの子どもたちが、方言を使わずに標準語で話していることも多いように感じます。マスメディアの発達が原因といわれますが、親が子供に方言を使わせないようにしているとも聞きます。福島弁ネイティブスピーカーの私としては、ちょっと寂しい気もします。
- ▶ そんな私も、実は一度だけ経験した東京勤務では、やはり方言を使わないよう意識しました。「○○だべ」などと言わないように気をつけたのですが、身に染みついた福島弁のイントネーションは変わらうはずがありません。意識すればするほど、かえって変なアクセントで「どこの言葉？」のような感じになってしまい、ある時、初対面の人に「茨城出身ですか？」と言われた時には、思わず苦笑いしました。
- ▶ この春に続編が放送されたNHKの朝ドラ「ひよっこ」を見ていて、「どうりで茨城弁の台詞がスーッと入ってくるはずだ」と、妙に合点がいった私でした。もっとも私は、みね子の「○○だっべよ」ではなく「○○だべした」と言いますけどね(^^)

(MS)